



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	清水 晶紀		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:B
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	20 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	20 %
		市民としての主体的態度	10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>【テーマ】 大学とは何か？ - 現代社会における大学の存在意義を探る</p> <p>【概要】 みなさんにとって、入学前の段階でイメージしていた「大学」は、どのようなものだったでしょうか。専門的な学問を追求するところ、社会人として必要な教養を身につけるところ、人生の制度設計をするところ、自由な学生生活を謳歌するところ、多様な価値観に触れるところ、4年間のモラトリアムを満喫するところ、「学士(大卒)」という資格を得るところ…</p> <p>これらのイメージは、いずれも正解です。実は、国によっても時代によっても、社会における大学の存在意義は異なっています。すなわち、現代社会における大学の存在意義についても、定められた一つの答えがあるわけではないはずだということです。</p> <p>そこで、本セミナーでは、「大学とは何か」を探り、現代社会における大学の存在意義を考えてみたいと思います。具体的には、スタートアップセミナーの内容を振り返った後、現代社会に多大な影響を及ぼす「知の巨人」の見解を文献の輪読を通じて把握するとともに、上級生・卒業生に対する聞き取り調査を通じて現役世代の見解をも把握し、改めて、スタートアップセミナーで提示した仮説の妥当性を検討してみたいと思います。</p> <p>また、以上のような作業を通じて、文献や資料の調査方法、レジュメの作成方法、基礎的な思考方法およびゼミでの議論方法など、「大学での学び」に必要なアカデミックスキルについても学んでいただきたいと思います。</p> <p>「大学で自分は何をするのか」という、まさにみなさん自身の問題を入口に、学問の世界と一緒に覗いてみませんか。</p>		
単位認定基準	<p>学問的な水準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学の歴史的経緯を理解できていること</li> <li>現代社会において大学の抱える問題点を多角的な観点から把握できていること</li> <li>現代社会における大学の意義について、自らの見解を論理的に説明できること</li> </ul> <p>技術的な水準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な資料や文献を収集読解する能力が身につけていること</li> <li>論点を明確に提示したレジュメを作成できるようになること</li> <li>ゼミ参加者が理解できるような報告や討論をできるようになること</li> <li>論理的かつ明快な文章を書けるようになること</li> </ul>		

授業計画	<p>詳細は参加者のみなさんと相談のうえ決定しますが、現時点では以下の通りの進行を考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション(前期の振り返り)</li> <li>2.J.S.ミル『大学教育について』(岩波文庫・2011)前半輪読</li> <li>3.J.S.ミル『大学教育について』(岩波文庫・2011)後半輪読</li> <li>4.J.S.ミル『大学教育について』(岩波文庫・2011)に照らした仮説の検証</li> <li>5.福澤諭吉『現代語版 学問のすすめ』(ちくま新書・2009)前半輪読</li> <li>6.福澤諭吉『現代語版 学問のすすめ』(ちくま新書・2009)後半輪読</li> <li>7.福澤諭吉『現代語版 学問のすすめ』(ちくま新書・2009)に照らした仮説の検証</li> <li>8.マックス・ウェーバー『新装版 現代語訳 職業としての学問』(プレジデント社・2017)前半輪読</li> <li>9.マックス・ウェーバー『新装版 現代語訳 職業としての学問』(プレジデント社・2017)後半輪読</li> <li>10.マックス・ウェーバー『新装版 現代語訳 職業としての学問』(プレジデント社・2017)に照らした仮説の検証</li> <li>11.上記見解を踏まえた上級生・卒業生への聞き取り調査準備</li> <li>12.上級生・卒業生への聞き取り調査</li> <li>13.聞き取り結果の共有・分析</li> <li>14.研究成果報告準備</li> <li>15.研究成果報告会(大学とは何か)</li> </ol> <p>なお、演習で取り上げるトピックに関わるゲストスピーカーを招聘したり、現場見学をしたりすることも検討しています。また、参加者のみなさんの希望によっては、ゼミ合宿を実施することも検討します。</p>
教材・教科書	<p>{授業計画}欄を参照してください。          その他、適宜指示します(時間的余裕や参加者の希望を勘案して他の文献を輪読することも考えます)。</p>
参考図書	<p>佐藤望編著『アカデミック・スキルズ(第3版)』(慶應義塾大学出版会・2020)          蛸原健介・高橋文彦・畑宏樹編『フレッシュヤーズ法学演習』(中央経済社・2016)          松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法(改訂2版)』(玉川大学出版部・2015)          など。</p>
参考URL	
授業以外の学習	<p>{授業計画}欄を参照してください。          いうまでもないことですが、授業時間以外にも、調査や報告の準備の時間が必要になります。          また、担当教員としては、演習で企画する各種イベントへの参加(花見・芋煮・スポーツ大会等)も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。</p>
成績評価の方法	<p>演習は学生のみなさんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。無断欠席は認めません。          その上で、演習での報告内容、議論への参加状況、レポート内容を総合的に評価します。</p>
成績評価の基準	<p>「単位認定基準」で示した項目を全て満たしていればC、そのうち複数の項目を高水準で満たしていればB、概ねの項目を高水準で満たしていればA、全ての項目を高水準で満たしていればSの評価が与えられます。</p>
オフィスアワー	<p>初回の演習で連絡します。</p>
授業改善・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「演習の主役」は参加者のみなさんであり、このゼミを楽しむのも、つまらなくするのも、ゼミを選択してくれるみなさん次第です。担当教員は極力発言を控え、サポート役に徹したいと考えています。</li> <li>・受講者数に応じて、運営スタイル(1回の報告者数、報告と議論の時間配分など)を柔軟に変更しています。</li> </ul>
留意点・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みなさんの履修を歓迎します。</li> <li>・演習の一環として、現場見学や実地調査を行うことがあります。その際には一定の費用がかかりますし、正規の演習時間外に実施する可能性があります。</li> <li>・他の演習と一緒に、合同ゼミを実施したり、各種行事に参加したりする可能性があります。</li> </ul>
教員の実務経験の有無	

